

SDGs未来都市  
OKINAWA



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

沖縄県は持続可能な開発目標（SDGs）を定めています。

令和4年度

SDGsアドバイザーボード会議

会議資料

令和5年2月10日

## 次第

### 1 開会

### 2 議題

- (1) SDGs推進に必要な視点や取組について
- (2) 「おきなわSDGsプラットフォーム」における分科会について

### 2 報告事項等

- (1) SDGs専門部会に関する報告について
- (2) その他事項

### 4 閉会



# 【議題 1】 SDGs推進に必要な視点や取組について

沖縄県では2019年度からSDGsの取組を開始し、2021年1月に提出された「SDGsに関する万国津梁会議」の最終報告を踏まえ、「SDGs未来都市」の形成に向けた各種取組を展開している。一方で、世界、国内の情勢も大きく変化し、様々な課題が顕在化しており、今後のSDGs推進に向けて必要な視点や取組等のご意見をいただきたい。

## 世界情勢の変化(国連 SDGs報告書2022より)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミック、気候危機、世界各地における紛争の増加の影響により、SDGsの17の目標達成が危機に瀕している。

### < COVID-19と影響 >

- ◆ 直接的または間接的に起因した世界御「超過死亡数」は、2021年末までに1,500万人に達した。
- ◆ 貧困削減に向けた前進が帳消しとなり、2020年には新たに9,300万人の人々が極度の貧困に追いやられた。
- ◆ 過去2年間で、1億4,700万人の子ども達が対面授業の機会を半分失ったと推計されている。

### < 気候緊急事態 >

- ◆ 世界は気候変動による惨禍の瀬戸際にあり、何十億もの人々がすでにその影響を感じつつある。
- ◆ 2021年のエネルギー関連の二酸化炭素排出量は6%増加して過去最高水準に達し、パンデミック関連の減少分が相殺された。
- ◆ 各国の自主的なコミットメントを足しあわせると、温室効果ガス排出量は今後10年間で14%近く増加する見込み。

### < ウクライナでの戦争 >

- ◆ ウクライナでの戦争は、現代で最も大規模な難民危機の一つを引き起こしている。
- ◆ 今回の危機により、食料、燃料、肥料の価格が応答し、サプライチェーンと世界貿易がさらに混乱し、金融市場も混乱し、世界の食料安全保障と援助の流れが脅かされている。

出典 国連広報センターHP 「持続可能な開発目標(SDGs)報告2022」

## 日本の状況について(SDSN 持続可能な開発報告書2022年版より)

国際的な研究組織 Sustainable Development Solutions Networkの持続可能な開発報告書2022年版において、平和、外交、国際協力は、世界が2030年以降に向けてSDGsを進展させるための基本的な条件」と指摘。新型コロナウイルス感染症の感染拡大やウクライナ情勢という複数の危機が同時に発生したことで、政策の関心と優先順位やSDGsやパリ協定などの中期の目標から、短期的な課題にシフトしていると警鐘を鳴らした。

## (参考) 沖縄県におけるこれまでの取組や経緯、県内の状況変化等

### 沖縄県のこれまでの主な取組・経緯

- 2019.4 SDGs推進についての宣言
- 2019.10 沖縄県SDGs推進方針の策定  
おきなわSDGsパートナー登録制度創設
- 2021.1 SDGsに関する万国津梁会議 最終報告提出
- 2021.5 SDGs未来都市、自治体SDGsモデル事業選定
- 2021.6 SDGsアドバイザリーボード会議設置
- 2021.9 沖縄県SDGs実施指針策定
- 2022.5 おきなわSDGsアクションプラン策定
- 2022.9 おきなわSDGsプラットフォーム会員登録開始
- 2022.12 SDGs認証制度試験運用開始  
(2023.4から本格運用の開始を予定)

### 沖縄県内の状況変化の事例

- ①SDGsに関する県民の認知度  
2020年 33% ⇒ 2021年 70%
- ②SDGsに関する企業認知度  
2020年 75% ⇒ 2022年 97%  
(出典) おきぎん経済研究所  
沖縄県内企業におけるSDGs認知度・動向等調査
- ③おきなわSDGsパートナー登録団体  
2022年1月 407団体 ⇒ 2023年1月 811団体
- ④おきなわSDGsプラットフォーム 1,121会員(2023.2/1)

### 沖縄県内の様々なSDGsに関する取組や動き

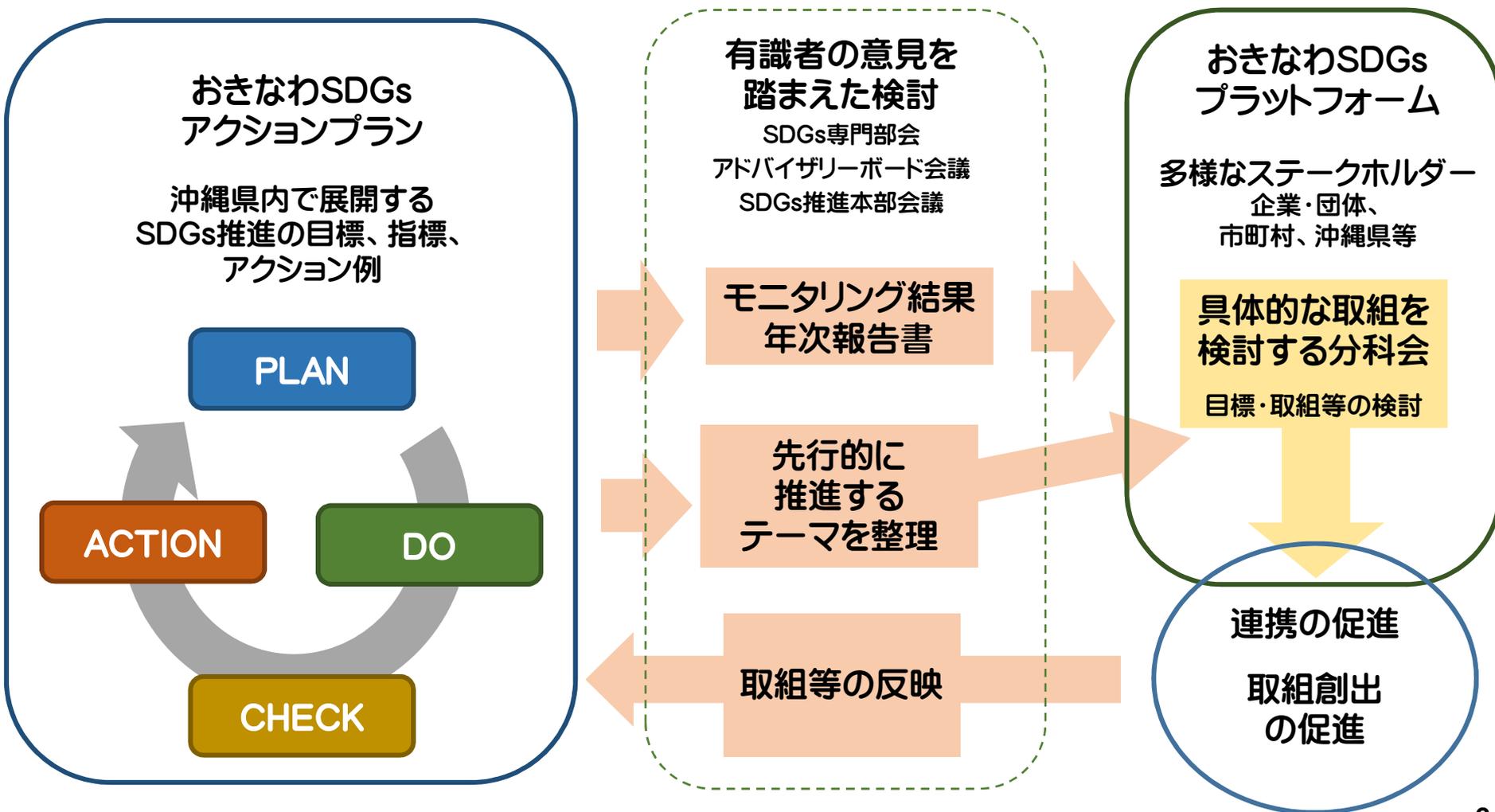
県関係課、市町村、教育機関、企業・団体等において主体的に様々な取組が展開されており、これらを共有することにより、活動の広がりを加速していくことが必要と認識している。

<取組事例は多用であるが参考として事例を紹介>

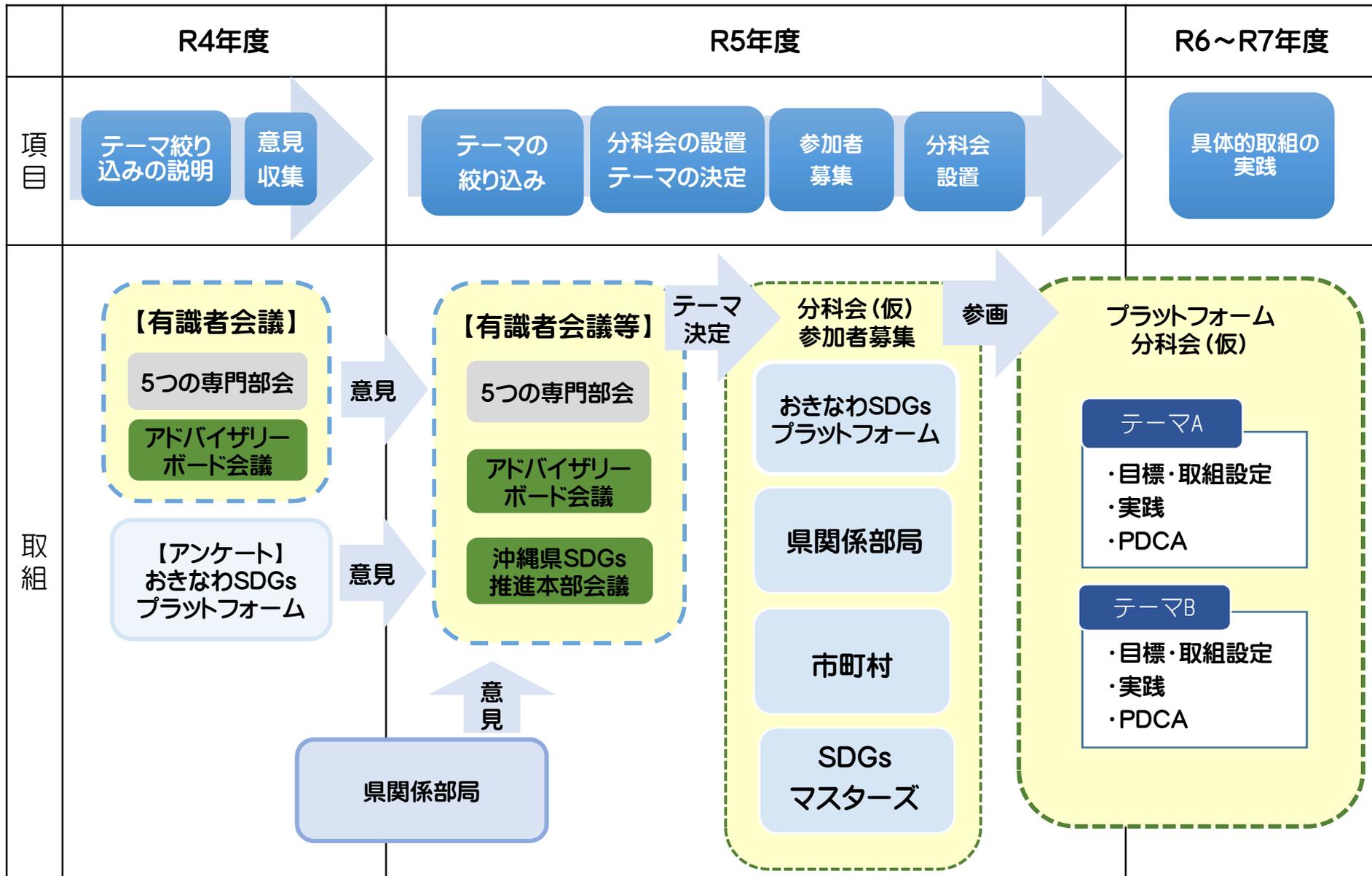
- (1) 子どもの貧困対策の広がり 子ども食堂の拡大(設置数、取組等)
- (2) 企業等の女性登用等の動き、女性活躍推進シンポジウム(中満 国連事務次長講演)
- (3) 世界のウチナンチュ大会の開催
- (4) 沖縄平和賞、平和発信に係るシンポジウム、ワークショップ(高校生の参画等)等
- (5) 脱炭素に向けた補助制度拡充、省エネ住宅導入促進のパートナーシップ形成(地域金融機関・建設企業等)
- (6) 脱炭素、DX、アップサイクル、サーキュラーエコノミー等の企業活動の広がり
- (7) 教育におけるSDGsの広がり(SDGs指定校等、各校の活動に広がり)
- (8) 大学等の学生ボランティア等の活動広がり(福祉、地域活性化など)
- (9) 市町村の取組(総合計画への反映、具体の取組等)他
- (10) 各地域で民間主体の地域に根ざしたSDGsの交流イベントが始まっている(石垣市、読谷村等)。

## 【議題 2】 「おきなわSDGsプラットフォーム」における分科会について

「おきなわSDGsアクションプラン」の実現に向け、「おきなわSDGsプラットフォーム」内に具体的なテーマに基づき取組を実践する分科会（チーム）を設置する。テーマ設定については、SDGs専門部会の各種意見、プラットフォーム会員のニーズを踏まえながら整理する予定。効果的な展開に向けた工夫など、意見をいただきたい。



# (参考) テーマの絞り込み、分科会(仮称)の設置等に係る工程について



# 【報告事項1】 SDGs専門部会に関する報告について

SDGs専門部会(5つの専門部会)を2023年1月23日~1月27日に開催し、おきなわSDGsアクションプランの改定、モニタリング・発信の方法、分科会設置について、意見を収集したので結果の概要を報告する。  
(SDGs専門部会の会議資料を参考資料として共有)

## 1 SDGs専門部会の開催状況

- ◆平和(peace)部会 1/23(月) 15:00 - 16:30
- ◆人間(people)部会 1/25(水) 10:30 - 12:00
- ◆地球(planet)部会 1/25(水) 14:00 - 15:30
- ◆繁栄(prosperity)部会 1/27(金) 10:30 - 12:00
- ◆パートナーシップ部会 1/27(金) 14:00 - 15:30

## 2 SDGs専門部会の議題

- (1)「おきなわSDGsアクションプラン」の改定(指標等)について
- (2) SDGs推進に係るモニタリング・発信について
- (3)「おきなわSDGsプラットフォーム」分科会のテーマ設定について

## 3 SDGs専門部会の主な意見

SDGs専門部会の意見(以下に主な意見を掲載)を踏まえ、対応を検討予定(会議終了後にも意見の追加提出予定)。

### (1) おきなわSDGsアクションプランの改定

#### <指標関連>

- ◆各指標の目標年を揃えることができないか。
- ◆指標以外の県経済成長率、県民総生産、雇用数、正規雇用率等、モニタリングも必要ではないか。
- ◆アンケート調査に関する指標は、調査方法により結果の偏りがでるので丁寧な設計が必要ではないか。
- ◆取り組んでいる自治体の割合の指標の立て方については、取組のレベルを示した方が良いのではないか。他の指標(犯罪被害者等)でも設定ができないか。
- ◆災害対応については、復興の対応(災害廃棄物対応)等に関する整理も必要ではないか。 等

#### <統合的モデル事例関連>

- ◆イノベーション・人材育成については、内発的発展の方向、リスクリングの視点を入れる方が良いのではないか。
- ◆持続可能な観光については、水等の資源のキャパシティ、地産地消等の視点を入れた方が良いのではないか。
- ◆地域振興にあたっては、住居環境の視点を入れた方が良い。 等

### (2) SDGs推進に係るモニタリング・発信について

- ◆沖縄の状況を厚くするとともに、沖縄の状況・課題から国内の状況、世界の状況と展開する方向が良い。
- ◆報道頻度の高い事案を取り上げる工夫をしてはどうか。
- ◆国際情勢のトピックス選択についての追加意見(障がい者等)。
- ◆取組事例の掲載は評価するが、皆の参考になる優良事例を抽出する工夫が必要ではないか。
- ◆沖縄の状況、アクションプランの進捗状況と優良事例などがつながるような整理が必要ではないか。
- ◆県民が一目で理解できるようなデザインや読みやすくする工夫(ふりがなを含め)をしたほうが良い。
- ◆学生向けの講座等での活用も見込まれる 等

### (3) 分科会のテーマ設定について

- ◆モデル事例の構造的な整理を活用するのは有効ではないか。
- ◆企業・団体間の実践のすりあわせには時間がかかるので余裕のある取組期間の設定が必要ではないか。 等

※個別分野の意見・提案が有り、後日、提案いただく予定。